

北九州市環境科学研究所報

第 35 号
(平成19年度)

北九州市環境局環境科学研究所

環境モデル都市 北九州市



北九州市民憲章

わたしたちのまち北九州市は、美しい自然に恵まれ、
ながい歴史とたくましい産業をうけついできました。

わたしたち北九州市民は、このまちを愛し、よりいっ
そうの市民参加によるまちづくりをめざしています。

このふるさとに、実りある未来を築くため、わたし
たちは、みんなで守る約束を定めます。

緑を豊かに 清潔で美しいまちにします

きまりを守り 安全なまちにします

人を大切にし ふれあいの輪をひろげます

元気で働き 明るい家庭をつくれます

学ぶ楽しさを深め 文化のかおるまちにします

はじめに

北九州市環境科学研究所報第35号の発刊をご報告申し上げます。

現在本市では、概ね10年間の展望した新基本構想の策定を進めています。

この中の重要な視点の一つとして「環境」や「安全・安心」が掲げられ、地球温暖化対策、資源循環型社会への転換、自然環境保全等の持続可能な社会の構築や、食の安全確保、新興感染症対策等の健康危機管理への対応というものが重要な課題として考えられます。

また本市は、本年7月22日に、国から「環境モデル都市」に認定され、低炭素社会の実現に向けたさらなる取り組みを行うこととしています。

一方、身近な問題として、10年ぶりの光化学スモッグ注意報の発令や、中国産ギョーザによる健康被害の報道等で、市民のこれらに対する関心がますます高まっています。

このような中で、当研究所は環境行政及び保健・衛生行政の技術的中核施設として重要な役割を担うとともに、国際環境協力の分野にも積極的に参画してまいりました。

一方、市の財政状況は極めて厳しく、行財政改革に伴う経費や人員の削減、加えてベテラン技術職員の大量退職に伴う技術の伝承という、他地方研究所と同様の問題を抱えています。

しかしながら従来にも増して、地域の行政課題解決に向けた調査研究、民間検査機関では対応することのできない行政検査、さらには環境や健康に係る危機管理対応といった当研究所の役割を、着実に果たしていくことが求められていることも事実です。

このため、より効率的な組織運営を行うことはもちろんのこと、国や地方研究所間における更なる連携強化を図るとともに、職員一人ひとりが責任と自覚を持ち、各事象を科学的な見地から客観的に観察し評価することができるよう日々研鑽し能力向上を目指すことが必要であると考えています。

この所報は、平成19年度に北九州市環境科学研究所が市民の保健衛生の向上と環境の保全に果たしてきた試験検査及び調査研究等についてとりまとめたものです。ご高覧のうえご教示等いただければ幸いです。

今後とも御指導、御鞭撻の程宜しくお願いいたします。

平成20年10月

北九州市環境科学研究所長
井 上 正 治

目 次

第1 沿革及び組織	
1. 沿革	1
2. 組織	1
第2 業務内容及び業務報告	
企画調整部門	3
環境科学部門	7
保健衛生部門	15
第3 調査研究業績	
1. 講演発表	
・日本におけるギンプナ中のPOPs（有機塩素系農薬）蓄積量調査	33
・LC/MSによる化学物質分析法の基礎的研究	35
・全国河川水の <i>in vitro</i> バイオアッセイによる曝露モニタリングに関するパイロット研究 その1：酵母アッセイを用いた河川水の受容体結合活性	37
・全国河川水の <i>in vitro</i> バイオアッセイによる曝露モニタリングに関するパイロット研究 その2：umu試験による河川水の変異原性測定	39
・ACCUMULATED AMOUNTS OF PERSISTENT ORGANIC POLLUTANTS IN CARASSIUS GIBELIO LANGSDORFII (CRUCIAN CARP) IN JAPAN	41
・LC/MSを用いたチウラムの高感度分析法の検討	45
・絶滅危惧種「ガシャモク」の生育池調査	47
・LC/MSによる農薬等分析法の基礎的研究（1） — <i>N,N'</i> -エチレンビスジチオカーバメート系農薬（ジネブ、マンコゼブ、マンネブ）—	48
・農薬等のポジティブリスト化に伴う検査の精度管理に関する研究（第2報）	50
・ポジティブリスト制度導入に伴う検査体制の充実 — LC/MSを用いた食品中残留農薬の分析法開発 —	52
・迅速・正確な食中毒原因菌確定を目指した検査方法の改善 —カンピロバクター属菌の検査—	54
・迅速・正確な食中毒原因菌確定を目指して —カンピロバクター属菌の検査方法改善—	56

2. 論文・報告書

- ・河川水中の遺伝毒性物質モニタリングへの発行 *umu* 試験の適用性について…………… 57
- ・平成19年度化学物質分析法開発調査報告書（2,4,5-トリクロロフェノール）…………… 58
- ・平成19年度 厚生労働科学研究費補助金（食品の安心・安全確保推進研究事業）
検査機関の信頼性確保に関する研究
 - －農薬等のポジティブリスト化に伴う検査の精度管理に関する研究－…………… 58
- ・同一PFGE型を示すO157が検出された複数の食中毒事件について－北九州市…………… 59
- ・九州地区における食品由来感染症の拡大防止・予防に関する取り組み 2
 - －IS-printing Systemの分子疫学的解析法としての有用性について－…………… 59

第4 環境マネジメント（EMS）の構築・運用

- ・環境マネジメントシステム（EMS）の構築・運用…………… 61
- ・北九州市環境科学研究所 環境方針…………… 62
- ・Kitakyushu City Institute of Environmental Sciences
Environmental Policy…………… 63

第5 資料編

- 1 職員配置表…………… 65
- 2 職員名簿…………… 66
- 3 予算概要…………… 67
- 4 分析機器整備状況…………… 68
- 5 検査区分及び依頼別分析件数…………… 69
- 6 分析検査数…………… 70
- 7 派遣研修…………… 71
- 8 平成19年度 調査研究テーマとその概要…………… 72
- 9 特許取得及び出願状況…………… 73
- 10 庁舎配置図…………… 75